



~ 13
3753
13



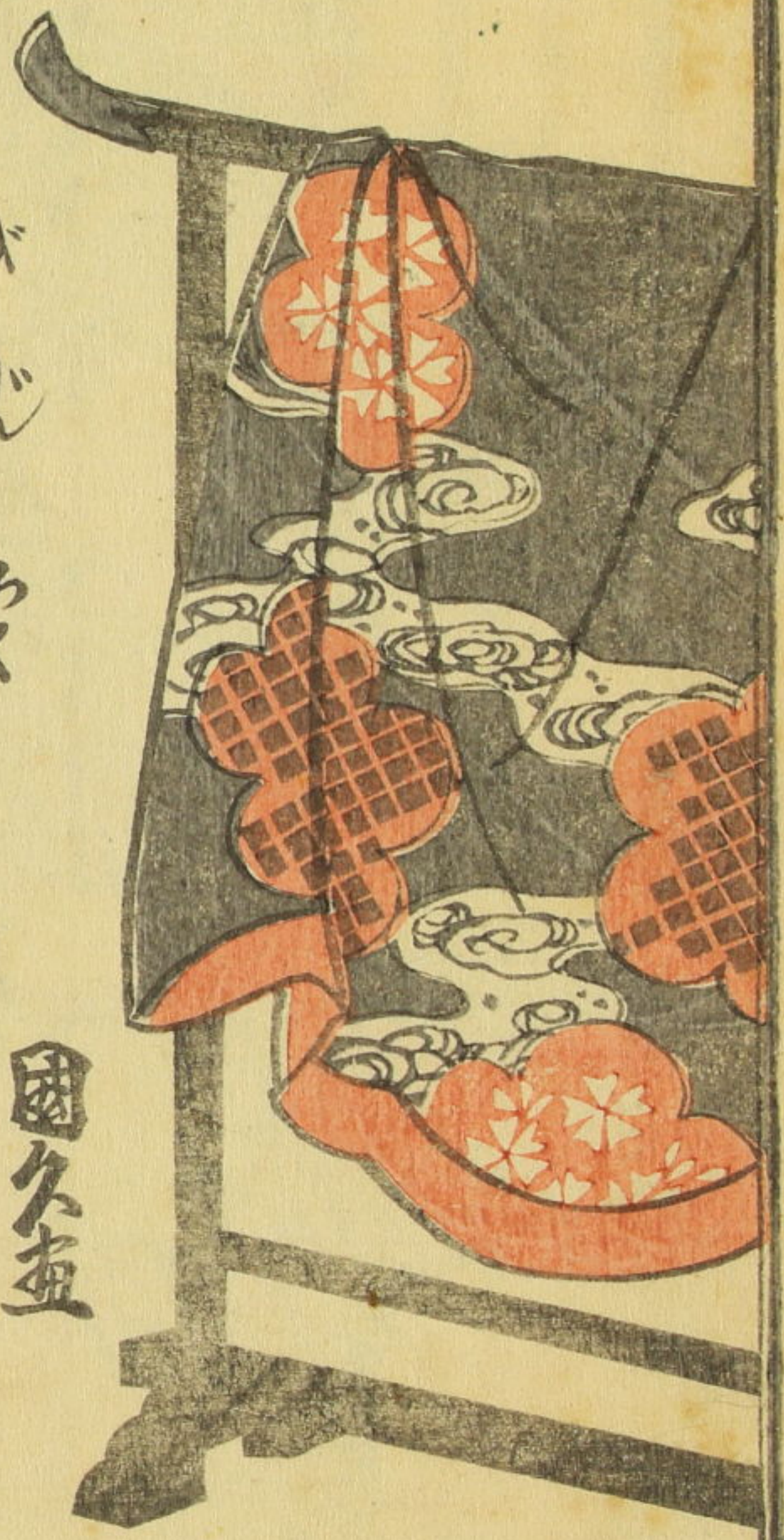
明 13
3753
卷13

九
京
山
一作
編
美人
採

園
郷
画

春
福
堂
板

園
久
畫



十八

一

ある諸君のチヤレハカを以テ
勝者ハハ徳を以テ人ハ勝
者ハ昌ト唐土の書物ハ
馬者ハ天下を以テ
此ハ勝トテハ万事ハ
町人の事ハチヤレハカを以テ
クハ時ハチヤレハカを以テ
大なる繪ハチヤレハカを以テ
ハチヤレハカを以テ



十八
一



又り人を下りおきていしはあつたての
又り人をいしはあつたての
又り人をいしはあつたての
又り人をいしはあつたての

又り人をいしはあつたての
又り人をいしはあつたての

又り人をいしはあつたての
又り人をいしはあつたての

又り人をいしはあつたての
又り人をいしはあつたての

又り人をいしはあつたての
又り人をいしはあつたての

又り人をいしはあつたての
又り人をいしはあつたての

又り人をいしはあつたての
又り人をいしはあつたての

又り人をいしはあつたての
又り人をいしはあつたての

又り人をいしはあつたての
又り人をいしはあつたての

又り人をいしはあつたての
又り人をいしはあつたての

○此冊子安政五年七夕稿本
同年冬上梓発取

○あつたての
勝つて息子を
迷ひての
事と徳を以て我
心勝つて

又り人をいしはあつたての
又り人をいしはあつたての

又り人をいしはあつたての
又り人をいしはあつたての

又り人をいしはあつたての
又り人をいしはあつたての

又り人をいしはあつたての
又り人をいしはあつたての

又り人をいしはあつたての
又り人をいしはあつたての

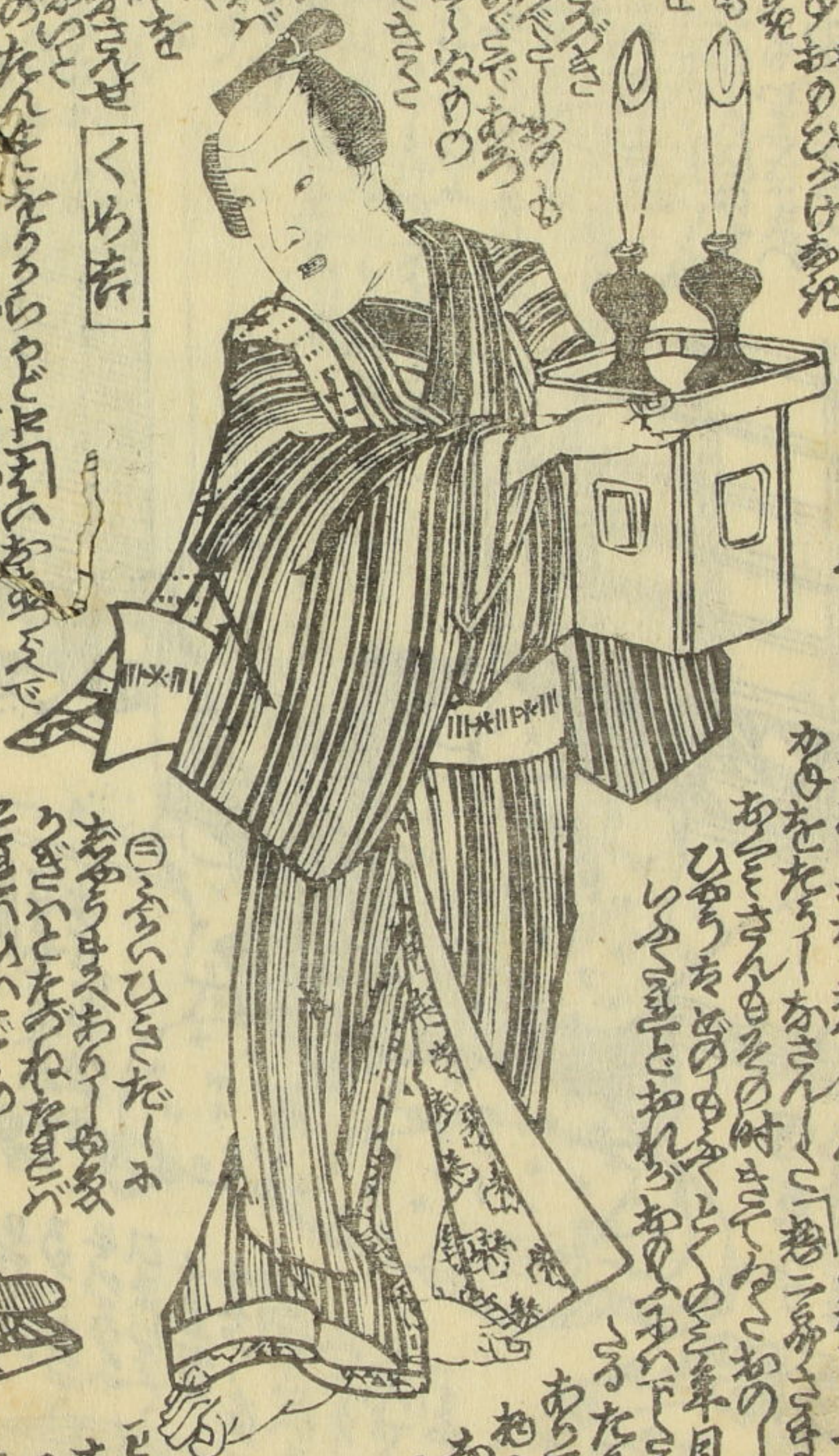
又り人をいしはあつたての
又り人をいしはあつたての

又り人をいしはあつたての
又り人をいしはあつたての

又り人をいしはあつたての
又り人をいしはあつたての

序文口繪
山東庵京山

おんなのこゝろをいかにせんか
 けしきとていかにせんか
 けしきとていかにせんか
 けしきとていかにせんか

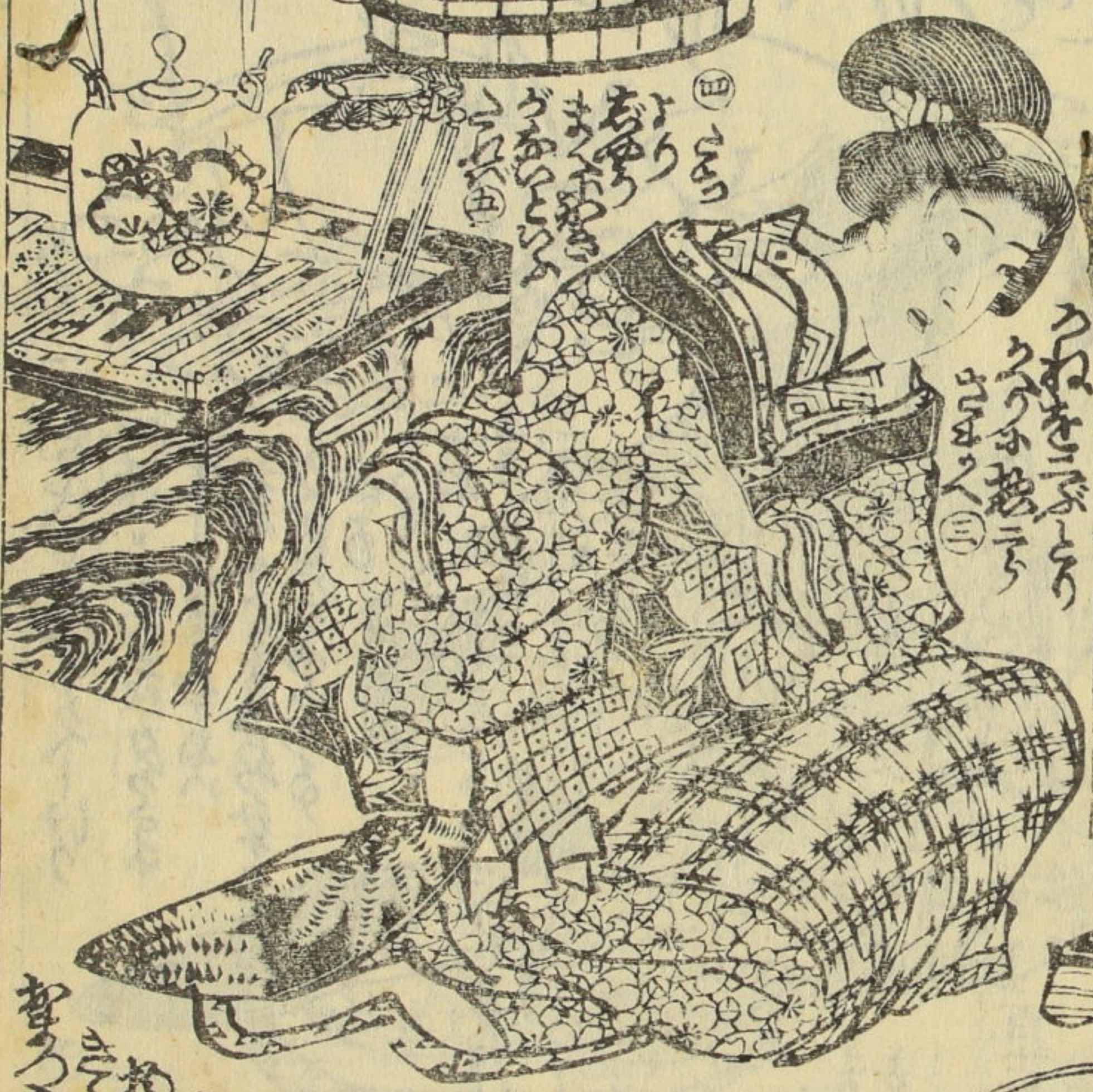


① おんなのこゝろをいかにせんか
 けしきとていかにせんか
 けしきとていかにせんか
 けしきとていかにせんか

おんなのこゝろをいかにせんか
 けしきとていかにせんか
 けしきとていかにせんか
 けしきとていかにせんか

おんなのこゝろをいかにせんか
 けしきとていかにせんか
 けしきとていかにせんか
 けしきとていかにせんか

おんなのこゝろをいかにせんか
 けしきとていかにせんか
 けしきとていかにせんか
 けしきとていかにせんか



おんなのこゝろをいかにせんか
 けしきとていかにせんか
 けしきとていかにせんか
 けしきとていかにせんか

くめあふうき
あゆみゆくね
あぐさあひ
めい



① 代々 ② 田原 ③ 久松 ④ 百廿五兩

⑤ 代々 ⑥ 田原 ⑦ 久松 ⑧ 百廿五兩



① 代々 ② 田原 ③ 久松 ④ 百廿五兩

⑤ 代々 ⑥ 田原 ⑦ 久松 ⑧ 百廿五兩

美人金十一

四

二
 五
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

六段 ちりき

かまろ

るをたつはまのう
うぶら多きをき男の
子ときむらうはしく
まうらわちりまはく
一てゆふたれくせ
るあかこかをして
あや、あやこかを
まこ、あやのうけを
だ、あやをい、あやをい
あ、あやをい、あやをい

あやこかをして
あや、あやこかを
まこ、あやのうけを
だ、あやをい、あやをい
あ、あやをい、あやをい



あやこかをして
あや、あやこかを
まこ、あやのうけを
だ、あやをい、あやをい
あ、あやをい、あやをい



七段

子安

おたか

あやこかをして
あや、あやこかを
まこ、あやのうけを
だ、あやをい、あやをい
あ、あやをい、あやをい



あやこかをして
あや、あやこかを
まこ、あやのうけを
だ、あやをい、あやをい
あ、あやをい、あやをい

あつちを
小ぢぢに
中まき
さして
しるすは

下の子をいふわりの

えんがしをいふわりの

あつちをいふわりの

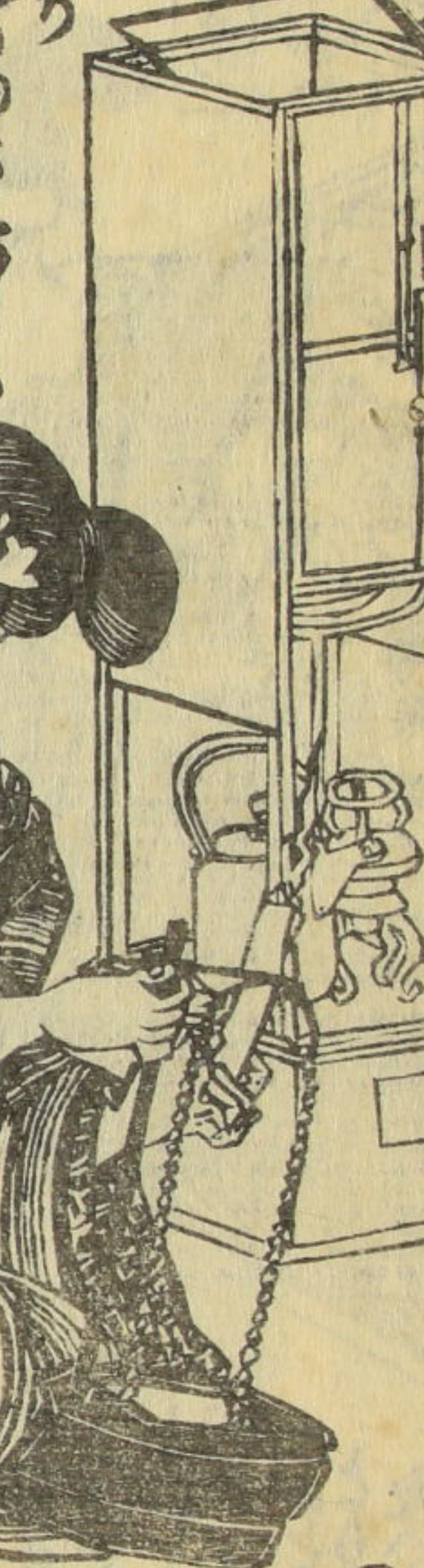
あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの



④これからあつち
子をいふわりの
せよまき
あつちをいふわりの
あつちをいふわりの
あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの

あつちをいふわりの



あつちをいふわりの

十條くまきくめき

あゝまはりのあゝま
分したるのあゝま
あゝまのあゝま



あゝまのあゝま
あゝまのあゝま
あゝまのあゝま
あゝまのあゝま
あゝまのあゝま
あゝまのあゝま
あゝまのあゝま
あゝまのあゝま
あゝまのあゝま
あゝまのあゝま

三日月



安政五年初秋
行年九十

京山作



國郷画



十二編より十五編迄
仙果作
追々責出―申の
國貞画
あゝまのあゝま
あゝまのあゝま
あゝまのあゝま
あゝまのあゝま
あゝまのあゝま
あゝまのあゝま
あゝまのあゝま
あゝまのあゝま
あゝまのあゝま
あゝまのあゝま

根源實紫

十一編校子兒松ヶ崎の郎ま女中小島等
朝弄せらば憤ふ堪も入水ん
十二編より十五編迄
仙果作

可哀味此事
武部野洲子
壽祖祈ふ奇病小苦
死に至る等の悲哀
十三編鳥兒武部を姉の誓とて書と加ん
大貳三位の誕生校子兒嫉妬の悪念
宣孝小殺と宣孝も金創重りて落筆
又北越赴ける性規の事を細記
少將の君の貞操と説く十四編以下
の崖畧ハ別記十ハ

芝神明前 喜鶴堂主人敬白



國郷画

美人深十番

① 美人の心算は...
 ② 美人の心算は...
 ③ 美人の心算は...
 ④ 美人の心算は...



⑤ 美人の心算は...
 ⑥ 美人の心算は...
 ⑦ 美人の心算は...
 ⑧ 美人の心算は...



⑨ 美人の心算は...
 ⑩ 美人の心算は...



あつちの入りあつちん
うけちきあつちん

あつちの入りあつちん
うけちきあつちん

あつちの入りあつちん
うけちきあつちん

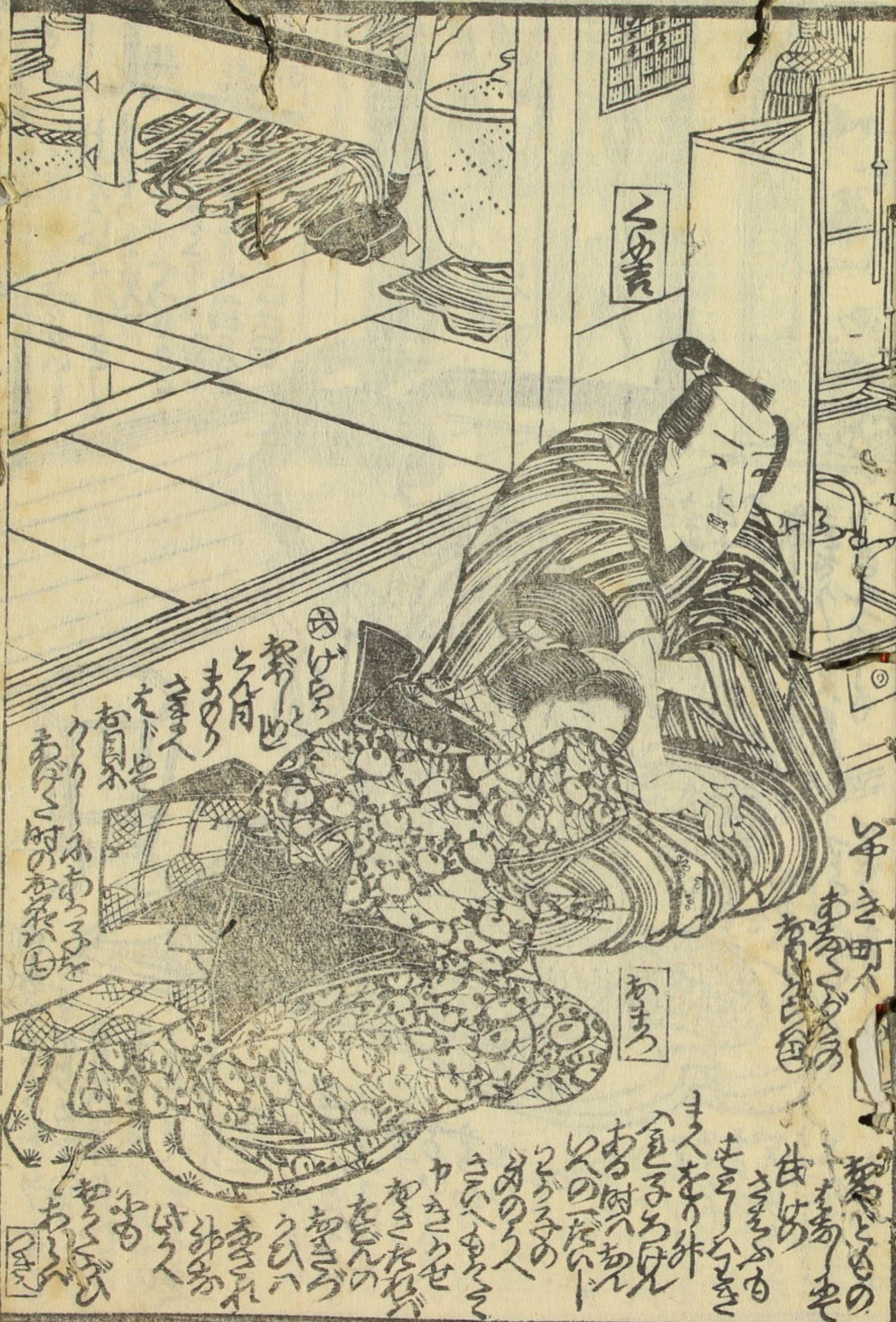
あつちの入りあつちん
うけちきあつちん

あつちの入りあつちん
うけちきあつちん

あつちの入りあつちん
うけちきあつちん

あつちの入りあつちん

あつちの入りあつちん



⑧ びん
 びんが
 あり
 まま
 を下
 へ
 下
 へ
 下
 へ

あま

あまの
 まま
 を下
 へ
 下
 へ
 下
 へ



⑦ びん
 びんが
 あり
 まま
 を下
 へ
 下
 へ
 下
 へ

あま

⑨ びん
 びんが
 あり
 まま
 を下
 へ
 下
 へ
 下
 へ

あまのこころ
あまのこころ

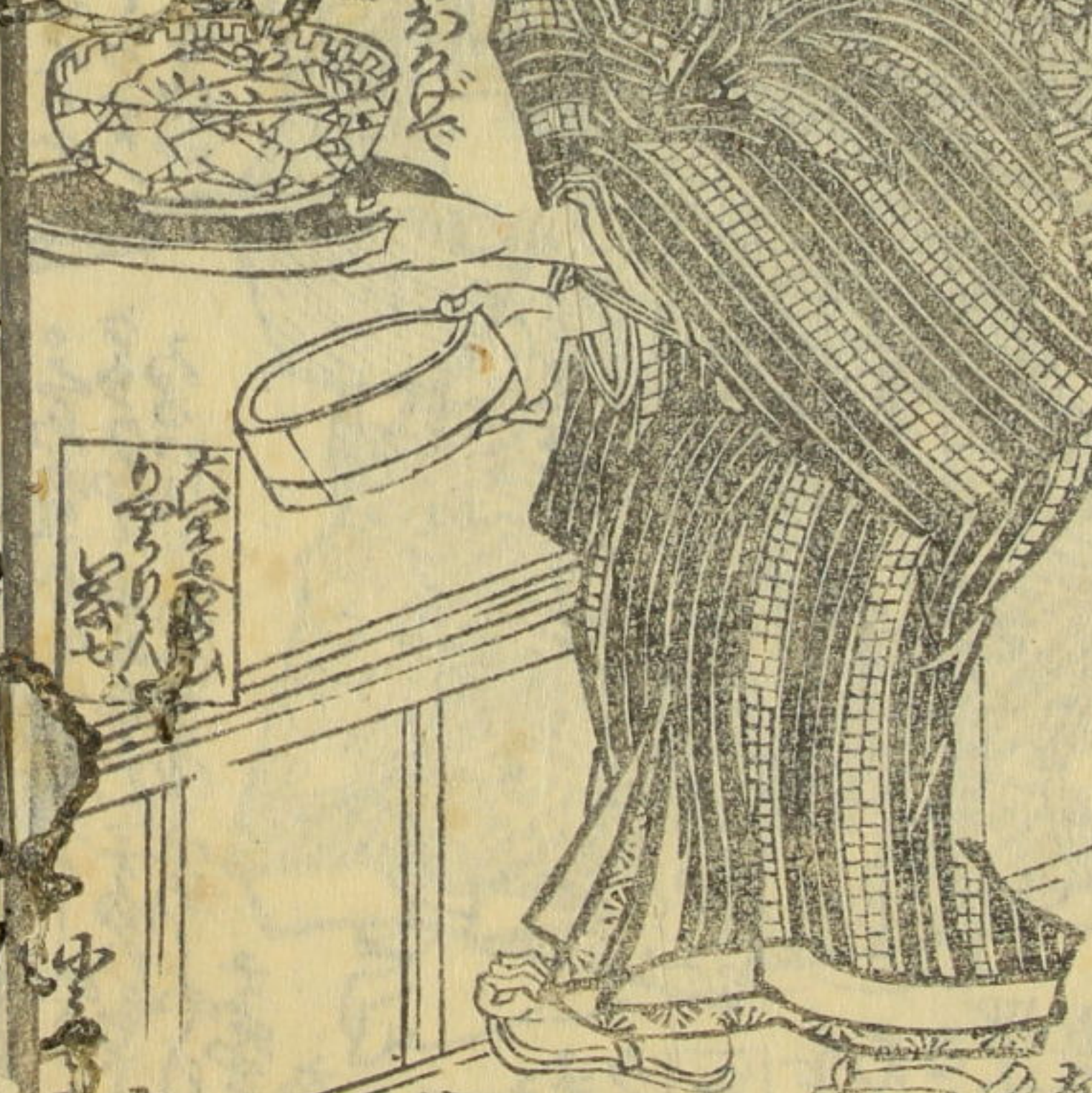


あまのこころ
あまのこころ



あまのこころ
あまのこころ

あまのこころ
あまのこころ



あまのこころ
あまのこころ



あまのこころ
あまのこころ

あまのこころ
あまのこころ

あまのこころ
あまのこころ

録目鑄新春孟年未己六政安

<p>地本繪草紙團扇問屋</p>	<p>立川齋國郷画</p>	<p>新增補西國奇談 九編</p>	<p>梅蝶樓國貞画 為永春水作</p>
<p>芝神明前三場四角 佐野屋喜兵衛板</p>	<p>同</p>	<p>娘庭訓金鶏 五編</p>	<p>樂亭西馬作 梅蝶樓國貞画 山東庵京山作</p>

國郷画



京山作
九十翁
五月七月

ひつる下をり
作者
十七八

